

# 国防の在り方

国際共生創成協会  
熊野飛鳥むすびの里  
荒谷卓

# 国防の在り方

- 1 戦後防衛の歩み
- 2 現状の問題点
- 3 何から何を守るのか
- 4 正しい国防の在り方

# 冷戦時、米国の北東アジアでの戦略転換

- 戦後の日米関係はJ.F.ケナンの対ソ戦略提案によって形成
  - ◆ 「東アジアにおける最重要国は中国である」  
との米国における伝統的発想を否定
    - ・日本は極東における唯一潜在的軍事・産業基盤を持ち  
反共思想、勤勉な国民資質、地理特性等から重要な国
    - ・中国は遠い将来にも強大な工業国軍事大国になる見通し無し
  - ◆ 米国にとって最も安定した戦略環境は  
「真に友好的な日本と名目上だけは敵対関係にある中国」
    - ・最悪ケース：敵意を持った中国と日本
    - ・危機ケース：名目上は友好的な中国と真に敵意を持つ日本
- マッカーサーの日本弱体化政策を  
米国戦略下の包括的政策に変更（後に、憲法改正の要求へ）

# 自衛隊

戦後再軍備の経緯

# 再軍備の根拠はポツダム勅令

- 再軍備については国会の審議なし
- 警察予備隊は米国が運用を完全統制
- 米国は指揮権を主張、日本側は協議に乗らず
- 海上警備隊は米軍の指示通り海軍将校が編成
- 陸上自衛隊は米国の経済支援を得るために保持
- 航空自衛隊は米国の安全保障上の理由で創設

# 自衛隊

戦後防衛政策

# 見せかけの日米同盟

- 国家としての国防計画がない
- 日米同盟は言葉だけの見せかけ
- 同盟としての働きは全く不十分で機能しない
- 緊張が増せば使い道がなくなる
- サブプライムな同盟で生き残れない

# 国防の在り方

- 1 戦後防衛の歩み
- 2 現状の問題点
- 3 何から何を守るのか
- 4 正しい国防の在り方



**米国の戦略上の要請により  
再軍備→自衛隊創設**

**国防は「米国にお任せ」  
国防計画はなし**

**憲法の趣旨「平和を愛する諸国民の公正と  
信義に信頼して、われらの安全と生存を  
保持しようと決意した」に則った国防方針**

# 冷戦後、米国の北東アジアでの新たな戦略転換

## ● 冷戦後の米国の抜本的戦略見直し

- ◆ 「新たな国際秩序に基づく自由な社会の拡大」
- ◆ ソビエトが衰退し(対ソ戦略の終了)  
世界的経済大国・地域的軍事大国として中国が登場
- ◆ 中国とは協調することが今後の基軸  
「友好的中国と敵意を持たない日本」が戦略ビジョン  
(アーミテージ・レポートⅡ等)

→日本の戦略的価値は終了。日本の資産を回収、使えるものは使う

# 冷戦後の国際情勢の推移

## 【東西冷戦間】 資本主義と共産主義の対立

西側諸国家が資本主義経済圏を形成、共産主義に対抗するため自国民を経済的に手厚く保護  
この間日本は、格差の少ない日本型資本主義システムにより、国民全員が経済成長の恩恵を享受

## 【冷戦後】 新世界秩序への始動

市場は、資本の自由移動(市場原理)への国家の関与を排除  
市場原理が国家内部に浸透し国家は国民の社会的保護を放棄  
国家は市場の支配下

経済的中間層が消滅し少数の富裕層と大多数の困窮層へと貧富の格差が拡大

## 【現在】

バイオ・パンデミックにより  
支配者と被支配者の完全なる分別  
パワーエリートをトップとする  
地球レベルでの  
政治・経済・金融・社会政策の統一

## 【近年】 アンチ・グローバル資本主義化

各国で市場化を主動するエリート層への  
反発の多様な動きが拡大

- グローバル化に抵抗するテロ
- 米国のようなナショナリズム国家
- ロシア等伝統的反市場主義国家
- ISのようなイスラム法国家の台頭

## 【将来？】

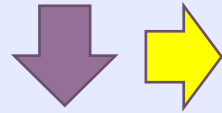
末端の個人レベルでの思想や行動を  
統制・統御する管理社会の実現

## 【将来？】

ポスト・グローバル資本主義  
日本型共助共栄社会の実現

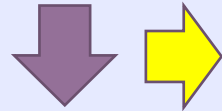
# 戦後体制を守る保守政体

戦後憲法の思想を国民に強要し、伝統的社会規範を放棄



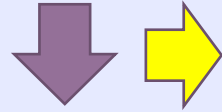
共生共助の共同体の破壊

個人の権限行使こそが最高価値とする現代社会が形成



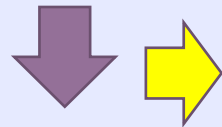
利他的価値基準の破壊

無限の財産獲得を正当とする自由競争原理が国際秩序



民主主義の破壊

市場の指示に従い国民の資産を売却・国民にリスクを強要



国民の人権を剥奪

現政体は米国と市場の要求を守り、日本を守ることを放棄

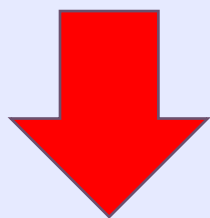
# 国防の在り方

- 1 戦後防衛の歩み
- 2 現状の問題点
- 3 何から何を守るのか
- 4 正しい国防の在り方

# 喫緊の課題

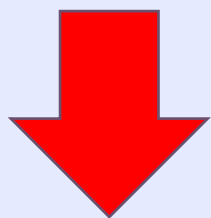
パワーエリートの計画から  
国民を守る

# パワーエリート計画



## バイオ・パンデミックを使った 管理社会の実現

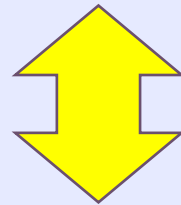
# **バイオ・パンデミックを使った 管理社会の実現**



**恐怖による相互不信・対立  
恐怖による孤立化・非社会化  
情報統制と法的強制**



**恐怖による相互不信・対立**  
**恐怖による孤立化・非社会化**  
**情報統制と法的強制**



**相互信頼・親和**  
**集団化・社会化**  
**情報共有・抵抗**

**相互信頼・親和  
集団化・社会化  
とは**

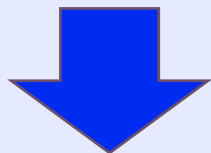
**日本の伝統文化社会の実現**

**\* 恐怖しない**

**新世界秩序を強要し管理社会をつくる為  
情報統制と法的強制する  
グローバリゼーション**

**から**

**自立した日本の共生文化社会を守る為  
正しい情報を共有し不当な強制に抵抗する**



**日本創成の当事者として、考え行動する  
国防の原点**

# 国防の在り方

- 1 戦後防衛の歩み
- 2 現状の問題点
- 3 何から何を守るのか
- 4 **正しい国防の在り方**

# 国 防

自立した日本の共生文化社会を守る為  
正しい情報を共有

- 伝統文化規範の共有（教育）
- 味方の情報共有（意思共有）
- 敵の情報共有（敵の理解）
- 環境醸成・情報交換（仲間醸成）

# 国 防

**自立した日本の共生文化社会を守る為  
不当な強制に抵抗**

- **消極的抵抗(拒否・不服従)**
- **抵抗準備(組織・機能・運用)**
- **積極的抵抗(防衛行動)**

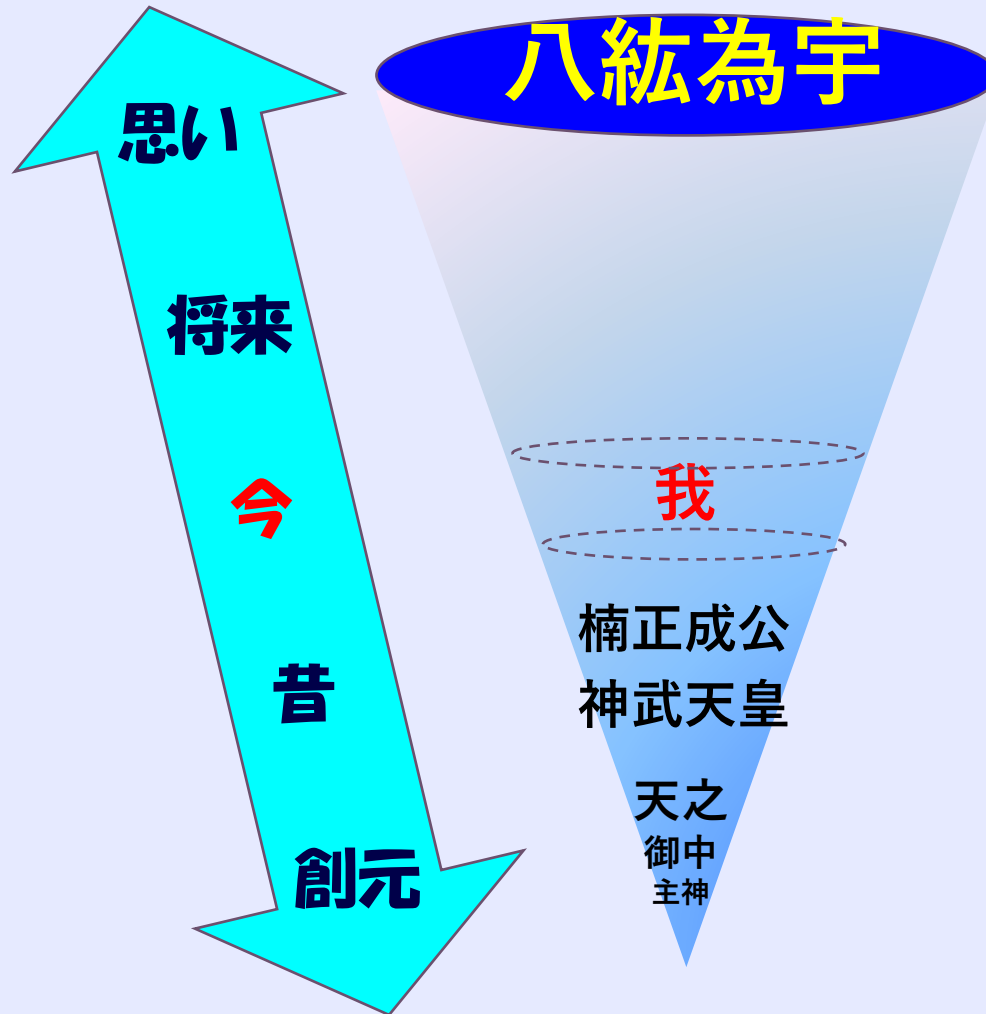
# 国防の根源

何のための国防なのかを明確にする

## 八紘為宇

天下に家族のような和する社会を築く為  
それを妨害、阻止、破壊する行為から  
文化規範、社会活動、活動主体を護る

# 一体としての時 「中今」





# 具体的行動

- ◆ 自立した共同体をつくる。
- ◆ 共同体間のむすびをつくる。
- ◆ 共同体間で情報を共有する。
- ◆ 共同体間で相互扶助する。
- ◆ 共同体一丸となって護る。
- ◆ 共同体間の規範を日本国家の規範とする。

共同体一丸となって、和を壊す強制力に抵抗し  
勝ち取った仕組みが、日本の国防の実態となる。